

## 日本都市計画学会関西支部 令和元年度 第1回ワークショップ

### 20年後の新大阪のコンセプトを作ろう

#### ～ 1日目 ファシリテーションを学ぼう ～

##### ■ 趣旨

日本都市計画学会関西支部では、将来のまちづくりや都市計画を担う人材育成に貢献するため、学生の方々を対象に、まちづくりや都市計画への関心を持って頂く活動に取り組んでいます。

今回は、リニア中央新幹線や北陸新幹線の整備によってもたらされる「スーパーメガリージョン」の西の拠点にふさわしい、概ね20年から30年後の新しい新大阪のまちづくりを題材に、まず10月28日(1日目)に学生のみなさんを対象としたファシリテーション講座を行いました。

また、これに続き、11月16日(2日目)に、新大阪駅周辺のまちあるきと、新大阪のまちづくりのコンセプトを考えるワークショップを開催しました。(別途、報告します)

##### ■ 開催要領

◇主 催: 日本都市計画学会関西支部

◇協 力: 特定営利法人日本ファシリテーション協会他

◇日 時: 令和元年10月28日(月)18:00～21:30

◇場 所: 大阪市立大学梅田サテライト文化交流ホール

◇参加者: 59名

◇内 容: ファシリテーション講座

講師: 特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 会長 竹本 記子 さん

##### ■ 開催概要

###### ○班分け

- ・参加者の受付時にくじ引きを行い、班分けを行いました。

###### ○企画趣旨説明

- ・西江企画委員が本企画の趣旨説明を行いました。

###### ○「ファシリテーションを学ぼう」

###### 【プログラム概要】

- ・特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会 会長の竹本 記子さんの司会・進行で、各班ごとに課題に取り組みました。

###### 1. オリエンテーション

- ・ファシリテーション(facilitation)とは、「人々の活動が容易にできるよう支援し、うまくことが運ぶよう、舵取りをすること。集団による知的相互作用



用を促進する働き」を、ファシリテーションと呼ぶ。

・ファシリテーター (facilitator) とは、「容易にする (促進する) もの、(会などの) 進行係」である。

## 2. グループワークしてみよう

・「よくある話し合い」として、「ゼミ旅行に行く企画を立てる」ことを題材に、各班で話し合い、ひとつの旅行企画を作ってみました。

## 3. ブレーンストーミングを試してみよう

・ブレーンストーミングのルールを学び、良いチームになるためのアイデア出しにチャレンジしました。

## 4. コンセンサスゲームをやってみよう

・あるストーリーを題材に、複数の登場人物の好感度を各自で順位付けし、班で話し合いながら、班としての順位付けを行う、という課題に取り組みました。

## 5. まとめ「良いチームに必要なこと」

・本日のまとめとして、グループでの話の進め方のコツや共有の仕方などについて、考えました。



## ○次回に向けて

・次回11月16日の第2回に向けて、「20年前と20年後の記事・写真・イメージを探す」ことが各自の宿題として出されました。

・次回の集合場所、集合時間などを確認して閉会しました。



## 日本都市計画学会関西支部 令和元年度 第1回ワークショップ

### 20年後の新大阪のコンセプトを作ろう

#### ～ 2日目 まちあるき&ワークショップ ～

##### ■ 趣旨

日本都市計画学会関西支部では、将来のまちづくりや都市計画を担う人材育成に貢献するため、学生の方々を対象に、まちづくりや都市計画への関心を持って頂く活動に取り組んでいます。

今回は、リニア中央新幹線や北陸新幹線の整備によってもたらされる「スーパーメガリージョン」の西の拠点にふさわしい、概ね20年から30年後の新しい新大阪のまちづくりについて考えていただくため、学生の方々を対象に、10月28日(1日目)にはファシリテーション講座を行うとともに、これに続き11月16日(2日目)に、新大阪駅周辺のまちあるきと、新大阪のまちづくりのコンセプトを考えるワークショップを開催しました。

##### ■ 開催要領

- ◇主 催: 日本都市計画学会関西支部
- ◇協 力: 特定営利法人日本ファシリテーション協会、JR西日本、UR都市機構他
- ◇日 時: 令和元年11月16日(土)10:00～18:00
- ◇場 所: 新大阪駅周辺 及び ネットカンファレンス大阪 会議室I
- ◇参加者: 46名
- ◇内 容:
  - まちあるき(新大阪駅周辺 90分)
  - 講演「新大阪エリアの可能性と期待」
    - ・i-plug 代表取締役 中野 智哉 様(にしなかわハレー)
    - ・JR西日本 創造本部担当部長 中田 純平 様
  - ワークショップ(グループワーク)
    - ・講師: 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 会長 竹本 記子 様

##### ■ 開催概要

- まちあるき
  - ・参加者には「新大阪まちあるきMAP」を配布し、以下のルートで、新大阪駅周辺を参加者に実際に歩いてもらい、それぞれのポイントで、引率した企画委員より新大阪駅周辺の課題や今後の可能性について、説明を行った。
    - JR 新大阪駅1階「動輪」前(スタート) ⇒ 日の出公園 ⇒ 宮原1歩道橋 ⇒
    - ニッセイ新大阪ビル ⇒ 地下道 ⇒ 宮原操車場 ⇒ 新大阪スカイデッキ(ゴール)



跨線橋

線路で分断されたまちをつなぐ



日の出公園

線路・道路で分断され駅から移動しにくい



宮原1歩道橋

南側から東西を渡るには北側へ迂回が必要



駅北西のオフィス街

高さ100mという伊丹空港の航空制限がある



地下道

宮原操車場の地下を南北に結ぶ



宮原操車場

今後の開発可能性に期待が高まる

○講演「新大阪エリアの可能性と期待」

i-plug 代表取締役 中野 智哉 様(にしなかバレー)



- まちが発展していく上で、スタートアップが重要と言われている。イノベーターが起こしたスタートアップと呼ばれる会社が、まちを変え、世界を変えていっている。
- 現状、関西・大阪は、スタートアップやベンチャーは非常に盛り上がっている。スタートアップやベンチャーに必要な環境は、ヒト・モノ・カネ・情報という経営ソース、及び、スタートアップを支援する大学・弁護士・弁理士・ベンチャーキャピタル等が揃っている。
- さらにスタートアップの成長には、互いに刺激しあうライバル関係、起業家のネットワークが必要である。大阪は独特の文化があり、先輩・起業家が後輩に教え、その後輩はさらに後輩に教える、ほぼ芸人の世界のような文化がある。起業家のネットワークも加速しているので、この先3年間ぐらいで多くの上場企業が出てくると思う。
- 最近、「にしなかバレー」等の小さなネットワークが、大阪府・大阪市の様々な支援策により、起業家達のネットワークがタテとヨコのつながり、ほとんどが知り合いである。そこに様々な投資も入り、さらに大手企業とのコラボも今後進んでいきそうであり、ソフトの面では非常に盛り上がっている。この盛り上げを継続していくためには、集積地が必要だと考えている。
- スタートアップ・ベンチャーが設立する場所は、家賃が安いところ。大阪では、最近、新大阪付近に増えており、それを束ねたのが「にしなかバレー」という団体である。新大阪・西中島は、ほとんどのベッタウンから通勤が便利で、さらに、新幹線・飛行機にも便利で、活動エリアは大阪だけでなく、名古屋・東京・福岡、全国にすぐ行ける。
- にしなかバレーでは、飲み会、コワーキングスペース運営、20代の起業家育成、交流イベント等、スタートアップのコミュニティをつくっている。そのコミュニティを刺激させて加速させるような集積地が実は今ないので、どこかにつくってほしい。
- うめきた I 期にはナレッジサロンやコワーキングスペースがあるが、会社が成長してそこを出ようとする、正直、賃料が高すぎて入居できる場所が梅田エリアにない。よって、新大阪・西中島周辺に、しっかりした集積地を意図的につくって、スタートアップを加速させていくのが良いと思っている。是非、そう仕掛けてほしいと期待している。もしできないなら、自分でビルを建てようかとも思っている。それぐらい集積地は絶対必要になると考えている。
- 今、スタートアップやベンチャーは第4期のブームと表現されているが、ブームから、集積地をつくって、

しっかり安定したムーブメントみたいな形になっていくのを期待している。自分自身もその活動を全力でやっているので、全員で盛り上げて、大阪・関西の未来をつくっていくようなまち、その中心が新大阪エリアになればよいと思っている。

## JR西日本 創造本部担当部長 中田 純平 様

・1956年5月、国鉄本社に東海道線増強調査会が設置され、東海道新幹線の検討を開始。1959年に東京～大阪間の建設工事を開始。その際、新幹線の駅を既存の大阪駅にするか、東淀川駅付近(現・新大阪駅)とするか2案あったが、以下の3つの理由で、現位置に新幹線の駅が決まった。

①大阪駅には当時より多くの乗降があり、これ以上の集中は好ましくない

②北部に千里ニュータウン、大阪国際空港、名神高速道路等の主要プロジェクトがあった

③新幹線の西への延伸を鑑みると、大阪駅だと淀川を2回渡る必要があり、非効率

・「アーバンネットワーク」大阪駅と新大阪駅との関連で鉄道整備計画が進んでいる。JR西日本関連では、2019年春に「おおさか東線(放出～新大阪)」が全線開業済。2023年春には大阪駅北側に地下新駅「(仮称)北梅田駅」が開業予定で、おおさか東線の乗り入れや閑空特急はるか号の停車を計画。2031年春にはなにわ筋線が開業予定で、(仮称)北梅田駅とJR難波駅並びに南海新難波駅から新今宮駅を連絡。阪急電鉄を中心として、(仮称)北梅田駅と十三駅をつなぐ「なにわ筋連絡線」、十三駅と新大阪駅をつなぐ「新大阪連絡線」が検討されている。



・「スーパー・メガリージョンネットワーク」リニア中央新幹線は、大阪～名古屋ルートがつながると、品川と新大阪が約67分で結ばれ、時間短縮効果が非常に大きい。想定開業年度が、2045年(令和27年)より最大8年間の前倒しの計画がある。新大阪はスーパー・メガリージョンネットワークの核となる。

・「リージョンネットワーク」北陸新幹線は、金沢～敦賀間を現在工事しており2022年度完成予定、それが新大阪まで延伸すると金沢～新大阪間が80分(今より約70分短縮)、2045年より最大8年間前倒しが目標。さらに、九州新幹線も、博多～長崎への西九州ルートが2022年度開業が目標であり、新大阪を核に九州・中四国・北陸が結ばれていく。

・「グローバルネットワーク」スーパー・メガリージョンネットワークの下で、閑空、羽田・成田という国際空港とも、非常に短時間でつながっていく。

・新大阪は、これら様々なネットワークと多層な結節点を持つ拠点駅へと進化する。移動時間の短縮は、フェース・トゥ・フェースのコミュニケーションの機会を増大させ、活動範囲の広域化というのが、ビジネスの進め方とか余暇の過ごし方とか、ライフスタイルに大きな変化をもたらす。

・「スーパー・メガリージョンネットワーク」の核・品川では、総延床は85万㎡(グランフロント大阪の1.6倍)という大規模開発が進められる。JR西日本でも、同じようなことが必要ではないかと思い始めている。

・今の新大阪エリアの課題を4つの視点でまとめた。

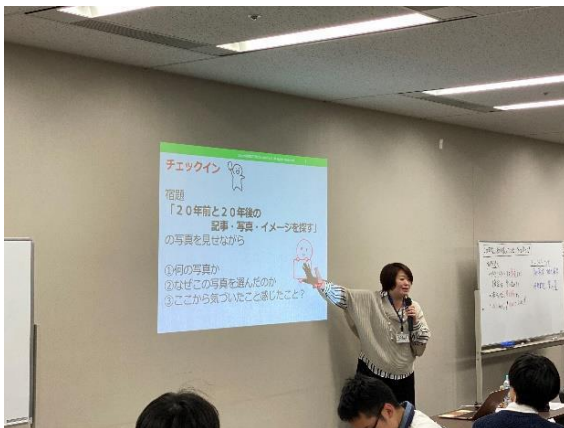
1. エリアを象徴する歴史・文化性、景観やオープンスペース、ランドマーク等が不足
  2. 新御堂筋、新幹線、在来線、駐車場中心の駅前広場等、歩行者等のバリアになっている。移動しにくく、東西南北が分断された、まちの構造
  3. 新規開発が少なく老朽建物の更新時期。都市機能更新が本格化している時期とみている
  4. オフィス、商業、繁華街等の立地エリアの他、ひと筋奥に入ると暗くて歩きにくいところもあるので、安全安心への配慮が必要
- ・新大阪エリアは、大きな交通インフラのインパクトに加えて、こういった課題を抱えている中でまだまだテコ入れでき、ポテンシャルは高く期待感の持てるまちと捉えている。J R 西日本としても先の長いプロジェクトだが、このチャンスを捉えて、新大阪の新しいまちづくりに貢献していきたいと思っている。

## ○ワークショップ

**講師: 特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 会長 竹本 記子 様**

### <グループワーク>

- ・6チームで、各チームに学生4名に、アドバイザー・ファシリテーター役2名(大学の先生・UR 職員・大阪市職員等)がいた。
- ・まちが変わる、人も変わる、生活も変わっていく中で、20年後の新大阪のコンセプトをつくるのがゴール。
- ・みんなで情報を集め合いながら、自分たちの考えを共有していく。まず、持ち寄った宿題(20年前の写真・記事)から気づいたことを共有。まちを見て感じたことを共有。ハード面も大切だが、どんな人が集うのか、どんな生活をしているのか、集う人のことを考え、全体で共有した後、コンセプトをつくってみる。
- ・コンセプトをつくるだけでなく、アイデアを一つにまとめいく喜びを感じられるよう、この話をする場を楽しむ。上手くことが運ぶように舵取りをするファシリテーションを意識する。もし上手くなってないと感じたなら、自分がファシリテーターの意識を持って、知的なものをドンドンだせるように、何が必要かを考える。





### <プレゼンテーション>

・各チーム、8分でコンセプトを発表した。

チーム草津 「Link・Charm・Accept」

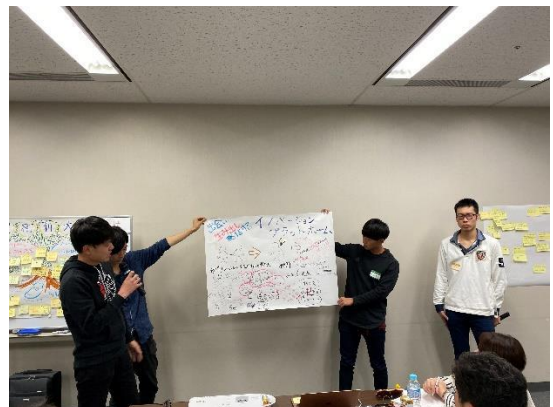
チーム白浜 「成功者はだいたい新大阪発」

チーム有馬 「菩提樹新大阪」

チーム箱根 「プラットつながる」

チーム道後 「出会い・生み出し・発信するイノベーションプラットホーム」

チーム登別 「日本のビックリ箱」



### <表彰>

・学生は一人当たり3点(シール3枚)、講師・助手・企画委員・講演者・関係者(大学の先生・UR等)は5点(シール5枚)で、良かったチームの発表の模造紙にシールを貼ることで順位づけを行った。

最優秀賞 : チーム白浜

優秀賞 : チーム有馬

優秀賞 : チーム道後





<講評>

**日本都市計画学会関西支部 企画委員会 岡井委員長**

- ・参加者は、都市計画を勉強している学生なので、アイデア出しにとどまらず、魅せるテクニックも示してほしかったが時間がなかった、時間配分等、主催者として申し訳なかった。にもかかわらず、予想以上に、どのチームも非常にすばらしいアイデアだった。評価の中で、順位はつけたが、どのチームもほとんど差がなかったのではないかと思う。
- ・新大阪は、リニアや北陸新幹線等による交通利便性に伴い、人々が集まる場所であるとしっかり認識し、人々の出会いから、色々なものが生まれて、さらに新しいものが生まれてくることを表現してくれたチームが多かった。まちづくりのワークショップとして、都市計画的に考えてどのように実現できるかまで考えたチームと、そこまでは時間的に難しかったチームがあったと思う。最優秀のチームは、具体的に都市計画の内容、土地利用や広場等の提案もしていた。
- ・もし次回こういう機会があれば、コンセプトの次にどういう風に、都市計画的に解決できるのかまで考えてもらえれば、さらに次のステップに進めるのではないかと思う。最後に、非常に時間がタイトな中、色々なアイデアを出して頂き、アドリブとなったが素晴らしい発表をして頂いたことに、感謝を申し上げたい。

**JR西日本 創造本部担当部長 中田 純平 様**

- ・一つ大事だと思っているのは多様性である。国とか人種を超え、色々な方が集まり議論している中で、それは考えもしなかったというところの交流の中で新しいものが生まれてくると思う。
- ・今日のみなさんの発表の中にもあった、国際的に人が集まるフィールドが実現できたら、真に新しいものが日本発でできるのではないかと思った。また、そういったプラットフォームづくりを生業にしていくのが当社であり、自分も学ばせて頂き、それを実現していかなければと再認識した1日となった。ありがとうございます。

**特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会 会長 竹本 記子 様**

- ・20年後の未来、みんなで意見を交わし気持ちを聞き合って、コンセプトはできたとは思いますが、今の時点ではもの凄く素晴らしいプレゼンでも、本当に20年後だろうか、とうことです。
- ・20年後の姿は、社会人であっても、想像できない。今から変わる技術だけではなく、心の部分で私達人間がどうやってそれについていけるか、どう受け入れていけるか、技術だけでない部分を見てほしいとの思いがある。ファシリテーションというのはそういう意味で非常に重要な力だと思っているので、少し興味を持っていただければと思う。本日はありがとうございます。